

たかつきの財政状況



問合 財務戦略室／Tel674-7352 ID 067945

令和7年度の普通会計は、33億7,000万円の黒字決算でした。黒字は昭和58年度からの継続で、健全財政を堅持しています。府内の市では唯一、市債残高が積立金残高より少なく、経常収支比率も、府内トップクラスに良好です。健全な財政状況のもと、今後も市民サービスの向上と安定した行政運営に努めます。※表示単位未満は四捨五入

普通会計 (単位：千円)			
歳入	歳出	翌年度繰越財源	実質収支
155,561,595	149,773,361	2,417,836	3,370,398

一般会計 (単位：千円)			
歳入	歳出	翌年度繰越財源	実質収支
155,555,919	149,771,733	2,413,787	3,370,398

特別会計 (単位：千円)				
会計名	歳入	歳出	翌年度繰越財源	実質収支
国民健康保険	33,199,886	32,736,594	0	463,292
介護保険	37,189,302	35,590,457	113,479	1,485,366
後期高齢者医療	8,696,964	8,380,555	0	316,409
母子父子寡婦福祉資金貸付金	178,128	174,080	0	4,048
財産区	4,621,167	87,067	0	4,534,100

普通会計

各地方公共団体の財政状況を同一の基準で比較できるように、公営事業以外の会計を一定のルールに基づいて取りまとめたもの。高槻市では、一般会計と母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計が含まれる

一般会計

福祉、医療、教育や都市環境の整備を行うための会計。市税が主に使われる

特別会計

保険料収入などを財源とする特定の事業に関する会計。原則、独立採算制をとる



市独自の物価高対策

物価高の影響を受ける市民生活や事業活動を支援するため、自主財源に加え、国の「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」も活用し、市独自の物価高対策を実施してきました。

令和7年度は、第7弾となるプレミアム付商品券の発行や高校生のいる家庭への地元産米の配布、

社会福祉法人に対する支援などを行いました。

令和8年度も、第8弾となるプレミアム付商品券の購入口数を従来の2倍に拡大して発行するほか、家庭用（口径25mm以下）水道料金の基本料金を4月検針分から1年間無償化するなど、市独自の物価高対策を実施しています。

<令和7年度>

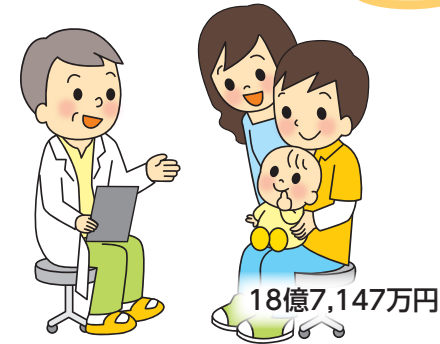
- 第7弾プレミアム付商品券を発行 16億1,247万円
- 高校生のいる家庭などへの地元産米5kgの配布 6,112万円
- 医療機関、社会福祉施設などへ支援金を給付 3億1,944万円



令和7年度の主な取り組み

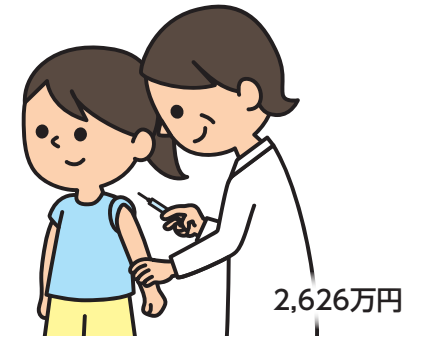
「大阪の高槻」から「日本の高槻」としてのさらなる飛躍に向け、子育て・教育分野をはじめ、都市基盤の整備や安全・安心、健康福祉・医療、文化芸術、にぎわい創出などあらゆる分野において、施策の充実に取り組みました。

子どもの医療費を完全無償化 府内初



子育て中の保護者の経済的な負担軽減を図るため、府内初となる18歳までの子どもの医療費自己負担額の完全無償化を実施しました

インフルエンザ予防接種の助成を拡大



子どものインフルエンザ予防接種費用を一部助成。対象者の年齢上限を小学6年生から、中学3年生までに拡大しました

見守り付き校庭開放実施校を20校に



小学生の放課後や長期休業期間中の居場所として運動場・体育館などを開放。これまでの5校に加え、新たに15校で実施しました

民間プールでの小学校水泳授業を実施



児童の泳力・体力の向上と、天候・気温に左右されない授業環境を確保するため、民間の屋内プールでの水泳授業を試行実施しました

小中学校体育館に空調設備を設置



市立小中学校27校で体育館に空調設備を設置し、全59校への設置が完了。教育環境と災害時の避難所環境改善を図りました

小中学校図書館を充実



自然科学や産業など、情報が日々更新されている分野を中心に学校図書を増冊。図書を活用した授業の充実に推進しました

令和7年度の主な取り組み

樫田地域でデマンドバスを試験的に導入



4,474万円

将来にわたって移動手段を確保するため、地域内を循環するたかつきデマンドバス「かしらく号」（予約制乗り合いバス）の試験的な運行を開始しました

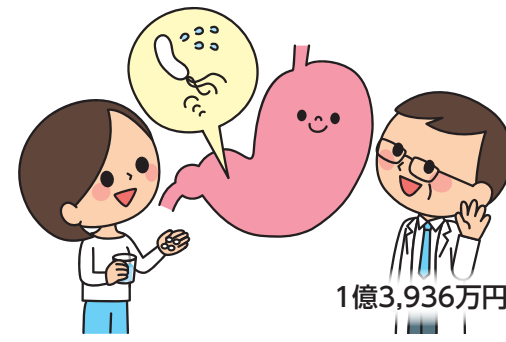
駅前公衆トイレ・喫煙所のリニューアル



2億1,120万円

駅周辺の公衆トイレ・喫煙所を、バリアフリー化や受動喫煙対策のためにリニューアル。高槻の玄関口を快適な公共空間に整備しました

がん検診・ピロリ菌検査で胃がん対策



1億3,936万円

50歳以上の胃がん検診と合わせて実施してきた中学2年生・30～40代を対象とするピロリ菌検査に20代を追加。胃がん対策を強化しました

グラウンド・ゴルフ場の整備を推進



3,490万円

高齢者の生きがいづくりや健康づくり、多世代交流の場として活用するため、上牧町でグラウンド・ゴルフ場の整備に着手しました

JR高槻駅前線の無電柱化を推進



1億9,320万円

地震や台風などの災害に強く、安全で快適な通行空間を確保するため、JR高槻駅前の無電柱化を推進しました

新たな消防指令センターが完成



12億3,263万円

島本町と連携して同センターを整備。消防指令事務の共同運用を開始し、応援出動の迅速化など相互応援体制が強化されました

文化の魅力高めるまちづくりを推進



8,013万円

高槻雅楽フェスティバルを開催するほか、中学生1,500人を音楽鑑賞会に招待するなど、文化の魅力を高めるまちづくりを推進しました

「将棋のまち高槻」を推進



7,441万円

将棋のタイトル戦誘致や将棋まつりの開催をはじめ、アマチュア将棋大会や子ども将棋教室の支援など、将棋振興に取り組みました

災害時の飲用水を貯留する給水管を設置



1,624万円

貯水機能付き給水管を水道部庁舎敷地内に設置。令和12年度までに、市内避難所である小中学校10校にも設置していきます

農作物を守る有害鳥獣対策を支援



757万円

有害鳥獣などによる農作物被害を軽減するために防護柵の設置費用への支援や捕獲のためのおりの貸し出しなどを行いました

高槻城公園北エリアを歴史的空間に



1億6,059万円

令和8年度末の高槻城公園北エリア一次開園に向け、火見櫓（ひのみやぐら）や土塁・土堀、武家屋敷トイレなどを整備。歴史的空間の創出を推進しました

エネルギーセンターの長寿命化



3億5,538万円

市民生活に不可欠な施設として、安定的なごみ処理を行うため、第二工場の長寿命化を目的とした改修事業に着手しました

他にも・・・

<都市機能の充実>

- ・民間建築物の耐震化促進 7,647万円
- ・JR高槻駅北側の整備など 1億7,499万円

<安全・安心>

- ・危機管理センターの整備 3億2,008万円
- ・特殊詐欺対策の強化など 922万円

<子育て・教育>

- ・認定こども園化の推進 7億1,578万円
- ・小中学校給食費の無償化 11億5,666万円

<健やかな暮らし>

- ・災害時要援護者支援の強化 2,500万円
- ・救急医療体制の充実 5億5,088万円

<魅力・にぎわい・活力>

- ・観光振興・シティセールスの実施 9,120万円
- ・史跡芥川城跡の活用に向けた取り組み 5,584万円

<市民生活の充実>

- ・コミュニティ活動の推進 1億8,990万円

<良好な環境>

- ・再エネ・省エネ機器の導入支援 1,448万円

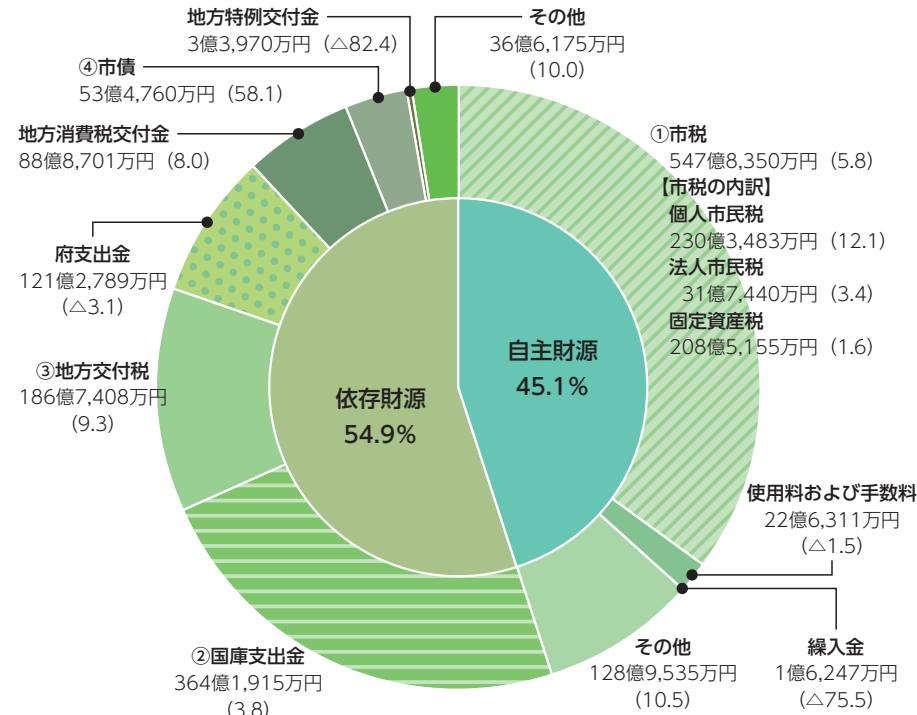
<効率的な行財政運営>

- ・ふるさと寄附金の推進 4億1,990万円

普通会計の内訳

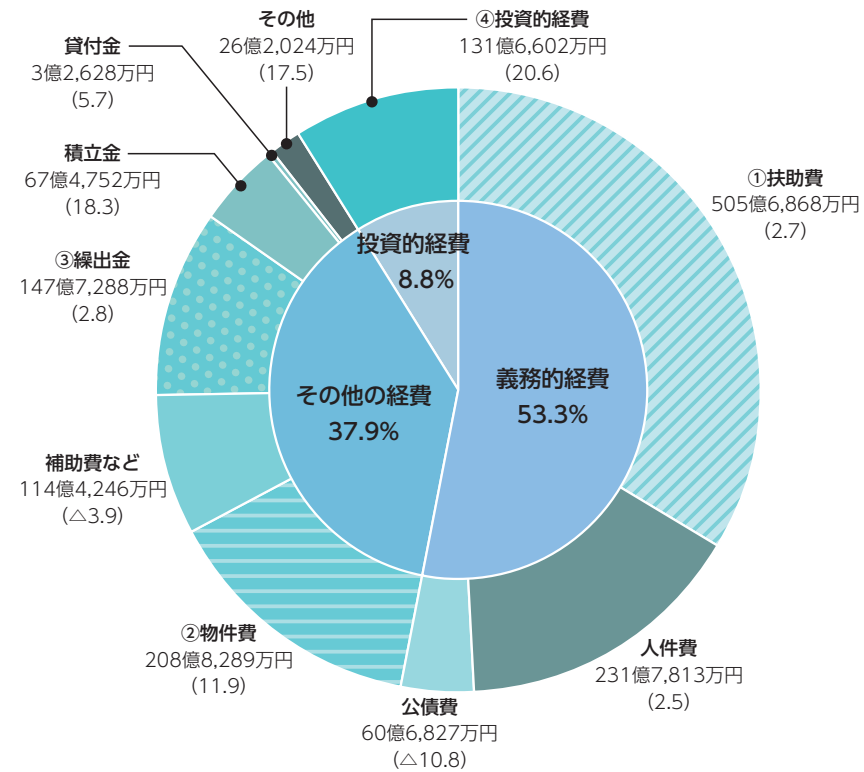
令和7年度の普通会計の歳入、歳出の内訳です。令和6年度と比較して変動した主な理由をお知らせします。
※カッコ内は前年度比増減率。△はマイナス

歳入 1,555億6,160万円（前年度比75億6,468万円増↑）



- ①市税
個人市民税は、定額減税終了の影響や給与所得の増加などにより増収。法人市民税は、製造業をはじめとして全般的に業績が好調だった影響により増加。固定資産税は、家屋の新築などにより増加。市税全体として増加
- ②国庫支出金
物価高対策に係る国の交付金などが減少した一方で、制度改正による児童手当負担金や障がい者自立支援事業費負担金、子どものための教育・保育給付交付金などが増加したため、前年度比で増加
- ③地方交付税
社会保障関係費の伸びに加え、国の補正予算による追加などにより普通交付税が増加
- ④市債
島本町と消防指令事務を共同運用する消防指令センターの整備や、エネルギーセンター第二工場の長寿命化を図るための基幹的整備に係る市債の発行が増加したことなどにより、前年度比で増加

歳出 1,497億7,336万円（前年度比70億1,691万円増↑）

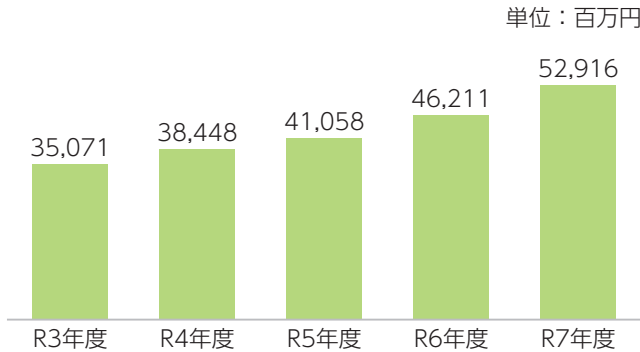


- ①扶助費
制度改正に伴う児童手当の拡充に加え、障がい者自立支援に係る給付や子ども・子育て支援に係る給付が増加したほか、令和7年4月診療分から、子ども医療費完全無償化を実施したことなどにより、前年度比で増加
- ②物件費
物価高の影響のほか、児童1人1台端末の更新などにより、前年度比で増加
- ③繰入金
高齢化の進行により、介護や後期高齢者医療に係る保険給付費が増えたため、特別会計への繰入金が増加
- ④投資的経費
富寿栄住宅建替事業や島本町と消防指令事務を共同運用する消防指令センターの整備を実施したことなどにより、前年度比で増加

4つの財政指標

主要な財政指標である、貯金・借金・経常収支比率はいずれも健全性が保たれています。また、国が定める健全化判断比率もすべて基準を下回り、堅実な財政運営ができています。

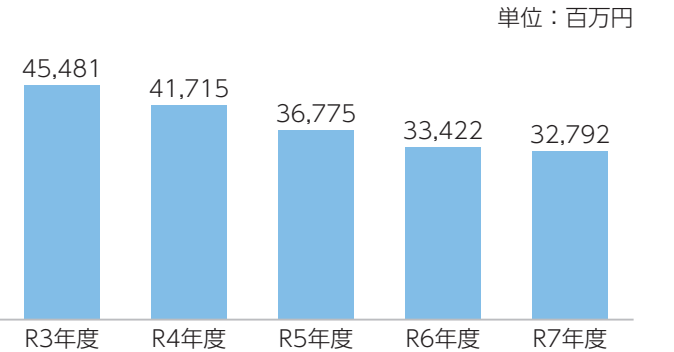
積立金残高 (市の貯金) 529億1,600万円
前年度比67億500万円増↑



市民1人当たりの積立金残高（貯金の多さ）
府内ランキング 第5位／33市

積立金は、財政の安定化や将来の財政需要に備えるもので、財政調整基金や公共施設等総合管理基金など、目的に応じて積み増しています。

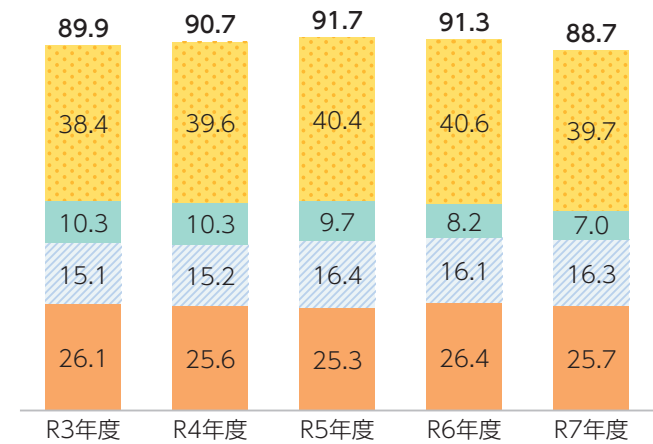
市債残高 (市の借金) 327億9,200万円
前年度比6億3,000万円減↓



市民1人当たりの市債残高（借金の少なさ）
府内ランキング 第1位／33市

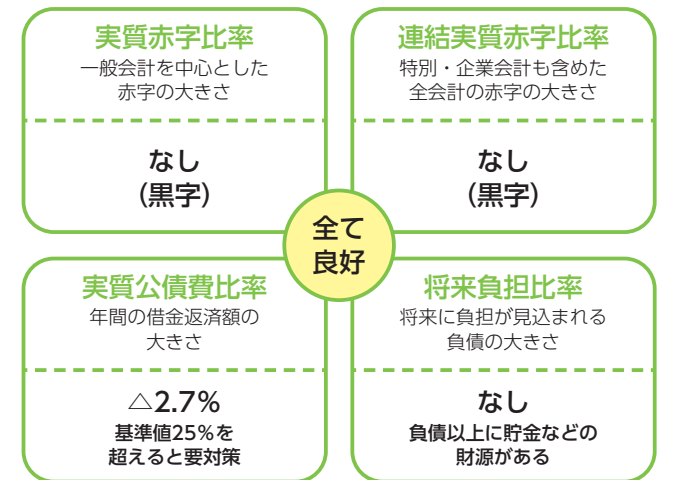
市債は、主に道路や公園、学校施設などの公共施設の整備を行うために国などから資金を調達するもので、計画に沿って償還しています。

経常収支比率 88.7% 前年度比2.6ポイント減↓



経常収支比率は、経常的にかかる経費が自主的に使える財源に占める割合です。臨時的な出費にも柔軟に対応できる財政状況の維持に努めています。

健全化判断比率



全ての指標が基準値を下回る良好な結果です。計画的に財源を確保しながら貯金や借金の返済を行ってきたことによって、健全財政を維持できています。

府内トップクラスの良好な財政状況 さらに魅力あふれる街へ

市は長年、積極的に行財政改革を行い、昭和58年度から43年間連続して黒字決算を継続。健全財政を維持しながら、医療や教育、子育て施策の充実に加え、高槻城公園の整備や将棋のまち高槻の取り組みの推進など、街のにぎわい創出にも取り組んでいます。

令和7年度決算の主な財政指標を見ると、府内の市でトップクラスの良好な財政状況にあり、引き続き、市民福祉の向上を目指し、施策を充実させるとともに、健全財政の堅持に努めていきます。





高槻市の家計簿



ここまで市の令和7年度の決算状況をお知らせしました。限られた財源をどう使うか考えるのは市の財政も家計も同じです。市の決算状況を家計簿に見立てて、身近な費目で市のお金の使い方を見てみましょう。

市の決算状況

※万円単位で四捨五入しているため決算値と異なる場合があります

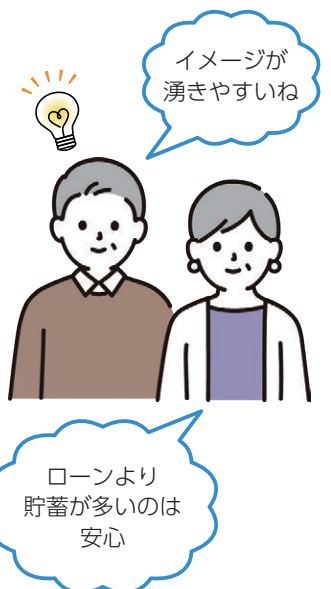
市債 327億9,204万円
積立金 529億1,627万円

歳入		歳出	
① 市税、交付税、国・府支出金など	1,394億5,809万円	① 扶助費	505億6,868万円
② 繰越金	52億4,047万円	② 人件費	231億7,813万円
③ 市債	53億4,760万円	③ 物件費	208億8,289万円
④ 財産収入	5億5,582万円	④ 繰出金	147億7,288万円
⑤ 繰入金	1億6,247万円	⑤ 投資的経費・維持補修費	157億8,625万円
⑥ 使用料、手数料、分担金、負担金、寄附金	47億9,715万円	⑥ 補助費など	114億4,246万円
		⑦ 公債費	60億6,827万円
		⑧ 積立金	67億4,752万円
		⑨ 貸付金	3億2,628万円
合計	1,555億6,160万円	合計	1,497億7,336万円



月収48万円の
家計に置き換えると…

※令和7年国民生活基礎調査の
データをもとに月額を算出



市の家計 (単位：円)

ローン残高 1,212,000
預貯金 1,956,000

収入		支出	
① 給料・年金 (89.6%)	430,000	① 医療費や保険料 (33.8%)	156,000
② 先月残ったお金 (3.3%)	16,000	② 食費 (15.4%)	71,000
③ 借入金 (3.3%)	16,000	③ 光熱水費や日用品代など (13.9%)	64,000
④ 資産運用収入 (0.4%)	2,000	④ おこづかいなど (10.0%)	46,000
⑤ 預貯金の取り崩し (0.2%)	1,000	⑤ 家の修理など (10.6%)	49,000
⑥ その他 (3.1%)	15,000	⑥ 習い事など (7.6%)	35,000
		⑦ ローンの返済 (4.1%)	19,000
		⑧ 預貯金の積み立て (4.5%)	21,000
		⑨ その他 (0.2%)	1,000
合計	480,000	合計	462,000

※カッコ内は構成割合

公営企業の経営状況

公営企業会計は、地方公営企業法に基づく企業として、経済性を発揮するための会計処理方式で、独立採算制による経営が原則とされています。市の3つの公営企業会計の決算をお知らせします。

(単位：千円)

	水道	下水道	市営バス
総収益 (A)	7,000,527	8,472,800	3,555,391
総費用 (B)	5,415,656	8,096,598	3,720,159
純損益 (A-B)	1,584,871	376,202	▲164,768
利益剰余金残高	4,305,541	785,709	2,601,577
企業債残高	128,159	25,366,123	10,200

水道 黒字増額 安定給水への取り組みを実施



水道管耐震化工事

黒字 15億8,487万円

昨年10月からの水道料金改定や元芥川受水場用地の売却により黒字が増額となりましたが、水需要の減少、物価高などの経営課題に直面する中、安定経営を行いながら、水道施設の強靱化（きょうじんか）を進め、将来にわたり安定給水ができるよう取り組みます。

令和7年度の主な事業

- 大冠浄水場配水 4・5号ポンプ更新工事
- 奈佐原受水池改修工事
- 郡家本町地区などでの配水管敷設工事（配水管を総延長9,588m敷設・更新）

下水道 黒字維持も厳しい経営環境 自主財源確保を継続



マンホールトイレの整備工事

黒字 3億7,620万円

人口減少による使用料の減収、物価高による経費の増加などにより、厳しい経営環境が見込まれます。事業費の平準化やコスト縮減に努め、マンホールふたの広告事業を実施するなど自主財源を確保しながら、持続可能な事業経営に取り組みます。

令和7年度の主な事業

- 郡家新町などでの下水道整備
- 災害用マンホールトイレの整備（土室小学校他5校）
- 管きょ内潜行目視調査と優先箇所の修繕
- 郡家本町などでの局所的浸水対策工事

市バス 収益微増も費用増加で赤字決算



「たかつきばすお号」のこども運転席

赤字 1億6,476万円

前年度に続き、乗降者数が増加したことで、運送収益は増加傾向を維持しました。一方で、物価高の影響や人件費の上昇などにより、費用が大幅に増加しました。今後も同様の傾向が予測されるため、収支改善の検討を進めています。

令和7年度の主な事業

- 「たかつきばすお号」へのこども運転席の設置
- 運転士育成・確保のための大型二種免許取得費用助成制度の創設
- 市の交通政策と連携したデマンドバスの試験的な運行の開始
- ドライバー異常時対応システムを搭載した車両への更新